



季刊

弥生の出雲王に出会える



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第19号 (2015年10月)

★企画展

「いつまでも戦後でありたい」

―出雲市民と戦争―

10月31日(土)～12月21日(月)

※ 11月3日(火・祝)は開館

翌4日(水)休館

【入場無料】

「戦後何年」という言い方がずっと続いて欲しい」

これは1945年(昭和20)生まれの吉永小百合さんの言葉。年齢

と平和が続く年数との思いです。

今年、先の大戦の敗戦から70年という節目の年です。

実は、わが出雲市(旧出雲市)は太平洋大戦の直前に誕生しました。

1941年11月3日「出雲市」が設置され、市議会選挙開票翌日

が12月8日。開戦を告げる臨時ニュースが流れた日でした。

あらためて、郷土と戦争との関わりを考えてみたいと思います。

【展示概要と主な展示内容】

1 「御一新」そして男子はみな兵士へ―明治維新と近代軍備

1868年の明治維新で身分制は廃止されましたが、それは全

男子が兵役を負う徴兵制度と直結していました。最初の徴兵では島根の若者も軍隊に入り、西南戦争などの内乱に参戦しました。

● 兵役抽籤くじ

● 大阪真田山陸軍墓地墓標

2 日清戦争と日露戦争―多くの若者が戦地に

初の対外戦争だった日清戦争、

続く日露戦争は村ごとに戻らざる

兵士を生みだしました。彼らを慰

霊する碑だけでなく、日本海海戦

のロシア兵の墓も残されています。

● 『日清戦争従軍写真帖』

● 平田愛宕山と斐川興林寺の記念

碑および北浜ロシア兵墓標

3 出雲市内のアジア太平洋戦争

の遺産―出雲市内も空襲があつた

と、市内にも基地などが造られ

ました。たびたび空襲警報が発令

され、1945年7月28日には市

内も空襲を受けました。

● 斐川団原鉄橋の弾痕

● 北浜防空監視所跡出土遺物

4 戦争は終わったが：

―行政文書などにみる戦後

戦争が終わっても、すぐに日常

は戻りません。海外からの兵士や

邦人の帰還は困難を極めます。そ

れでも平和は代えがたいものです。

● 引揚げに関する資料

● 亡き父を追悼する石碑

(●)は主な展示品

● 関連講演会

11月22日(日) 14時～16時

「戦争遺跡・遺物から見えるもの」

【講師】原田 敬一氏

(佛敎大学 教授)

12月13日(日) 14時～16時

「本土決戦に備えた陣地を掘る

―『子号演習』関連遺構の調査―

【講師】佐伯 純也氏

(米子市文化財団)

※事前申し込み必要

● ギャラリートーク

10月31日(土)・11月28日(土) 13時～

【講師】花谷 浩(当館)



大津駅前兵士見送り(1936年)

★ギャラリー展示

「発掘された戦争遺跡」

「地下の遺構やモノが語る戦争」

戦後70年を迎え、今年は「戦争」について考える行事や展示が各地で行われ、平和・不戦の思いを再認識する一年となっています。そうした中、減少していく戦争体験者に代わり、「戦争」を伝える場として戦争遺跡の保存活用を図る動きが広がっています。しかし、戦争遺跡の評価をめぐっては課題も多く、埋蔵文化財として調査された遺跡は全国的に見ても多くありません。



小倉造兵廠跡で見つかった地下室
(提供：北九州市芸術文化振興財団)

今回の展示は、埋蔵文化財とし

て調査が行われた全国の戦争遺跡を紹介します。考古学によって明らかにされた「戦争」の実態をご覧いただければと思います。

今回紹介する遺跡の一つに、北九州市の小倉造兵廠跡で見つかった地下通信施設があります。造兵廠とは武器弾薬の設計・製造・保管を行う軍隊直属の兵器工場のこと、小倉造兵廠は最盛期に四万人が働いたとされる日本陸軍の兵器生産の中心でした。

この地下室は、発掘調査中に偶然見つかったものです。記録にもなく、終戦直後に封鎖されたため忘れ去られていました。

部屋の中には当時使用していた机や椅子、電話機、算盤などが残され、それらの遺物から電話通信施設であることが分かりました。部屋は東西二つに分かれ、東の部屋は長椅子、西の部屋は一人用椅子など遺物の内容に差があることから、東よりも西の部屋に上位の階級の人物がいたと考えられます。

時空を留めたこの部屋は戦時中の人びとの活動をそのまま伝えていきます。

(高橋 周)

★速報展

まいぶんのお仕事紹介①

「金属製品を保存する」

「金・銀・銅・鉄の保存処理」

出雲弥生の森博物館の中には、遺跡の発掘調査などを行う「埋蔵文化財係」、人呼んで「まいぶん」という部署があります。博物館の展示資料は、そのほとんどが「まいぶん」の調査によって地中から掘り出されたものです。

「まいぶん」職員は、発掘調査に留まらず、遺物の整理、本の執筆、写真撮影など、たくさんのお仕事をしています。このバラエティに富んだ仕事の内容を知ってもらいたい！という想いを込めて、今



鉄製品のサビ落とし作業

回から新しい速報展シリーズ「まいぶんのお仕事紹介」を企画しました。初回は、金・銀・銅・鉄で作られた遺物を未来へ残すための「保存処理」の仕事をご紹介します。

「保存処理」は、遺物の劣化をおさえ安定させて、永久的に保存していくために欠かせない作業です。金属製品の場合は、サビや腐食という劣化から遺物を守るためにさまざまな処理を施します。処理を行うためには、高い専門知識が必要となるため、「まいぶん」では、専門業者と協力して作業を進めます。

展示では、金属製品の出土から保存処理が終わるまでの工程や、処理にかかる全ての手順を、写真パネルで細かく解説します。さらに、最近保存処理を終えたばかりの金属製品を一挙に展示します。普段見ることのできない「まいぶん」のお仕事を見てみませんか。

(奥原このみ)



保存処理ビフォーアフター
金環(耳かざり)

★姫神シンポジウム開催

～女性たちが発信する

古代出雲の魅力～

10月25日(日)

【参加無料】



ビッグハート出雲 白のホール

【開場】12時30分～

【開演】13時～

・託児 希望者は博物館まで

申込み締切10月13日

会場で素敵なグッズがあたる♪

男子も来てネ!

出雲のワクワク、ドキドキを

姫神たちが語ります。

●ライブ&トークショー

古代と古墳をこよなく愛する二人の乙女、まりこふんさんとヨザワマイさんが来雲されます。

お二人のユニット「コジファン」のライブ&トークショーをお楽しみください。

▼まりこふんさん

古墳シンガー

古墳にコーファン協会会長

▼ヨザワマイさん

古代妄想イラストレーター、漫画家

●パネルディスカッション

近年、歴史という「歴史が好きな女性」を示す言葉が生まれるなど、歴史に興味を持つ女性が増えつつあります。現在出雲大社周辺を中心に、古代出雲への関心が高まっており、古代出雲にも注目が集まっています。

パネルディスカッションでは県内で活躍する女性団体をパネラーとしてお招きします。女性の目線で見えた出雲の「歴史文化遺産」の魅力を発信します。

▼パネラー 女性団体

・おくいずも女子旅つくる！委員会

・さんべ女子会

・ロマンティック愛ランド実行員会

・浜田商工会議所女性ネットワーク

・社☆ガール

▼コーディネーター

・本間恵美子

・松江城姉さま鉄砲隊隊長

★指定文化財紹介⑬

出雲大社宇迦橋大鳥居

所在地 出雲市大社町杵築南
構造 鉄筋コンクリート造



鳥居を100周年を迎え
登録される大鳥居

宇迦橋大鳥居は、宇迦橋の北詰に道路をまたいで立つ明神鳥居です。出雲大社の新たな参道として開通した神門通りを彩るため、また大正天皇の御大典記念として、鳥根県邑南町出身の篤志家小林徳一郎氏の寄進により大正4年(1915)に建立されました。鳥居の高さは当時では日本一となる23メートルで、国宝出雲大社本殿の24メートルより高くなるなど、いよう配慮されたようです。

近代に整備された旧大社駅から出雲大社への参道景観を象徴的に演出しており、建設から100周年を迎える今年の7月に、登録有形文化財として国の文化審議会から文部科学省に答申されました。

(柳樂 雅重)

★博物館アテンドコーナー

「フェイスブックの紹介」

こんにちは！
博物館のアテンドです☺

今年3月より、私たちアテンドは「アテンドのつぶやき」と題して、フェイスブックで情報発信をはじめました。

アテンドが日々思ったことや感じたことをはじめ、博物館の展示やイベント情報、史跡公園の魅力など写真も添えて紹介しています。

青空とよすみ、夕焼けとよすみの投稿には、たくさん「いいね！」をいただき、とても嬉しかったです。

現在は、アテンドト皆で行った、出雲市内の文化財研修で見学をした古墳や遺跡など、場所別に紹介しながら週に1〜2回を目標に更新していきます。博物館ホームページをご覧ください。



西谷3号墓より撮影「西谷2号墓と夕焼け」

★出雲市無形文化財発表会

▼日時 平成27年11月29日(日)

午前10時～午後4時

▼場所 大社文化プレイスうらら館

▼入場料 前売り 400円

当日 500円

中学生以下 無料

※当館で前売券購入できます。

▼出演団体(11団体・順不同)

・大土地神楽保存会神楽方

・赤塚神楽佐儀利保存会

・乙立神楽保存会

・土手町神楽保存会

・三谷神社投獅子舞保存会

・差海神事舞保存会

・荒茅盆踊り保存会

・市森神社神事花保存会(展示)

・平田一式飾り保存会(展示)

・直江一式飾り保存会(展示)

・赤塚神楽佐儀利保存会(子ども神楽)



★館長講座のご案内

「発掘調査のお宝動画公開！」

○11月14日(土)

「造山古墳」(安来市)

「学研賞に輝く島大生の8ミリ映画」

○1月23日(土)

「西谷3号墓」(出雲市)

「島大チーム出雲の王墓に挑む」

右の講座はいずれも

【講師】渡邊貞幸(当館館長)

●時間 14時～16時

●受講料 300円

●定員 80名

※受講を希望される方は、博物館へお申し込みください。

館へお申し込みください。

★お知らせ

— 施設使用料の改定について —

区分	使用料 ※1時間につき		
	改定後	現行	
実習室	500円	308円	
たいけん学習室	全面	2,500円	1,028円
	半面	1,250円	514円

冷暖房使用料は3割加算とする。
(10月1日～)

★館長コラム⑭



考古学者が登場する映画で忘れられないのが、出雲を舞台にした『花いちもんめ』(85年)です。

島根文化大学元教授の考古学者が認知症になり、博物館(松江城興雲閣でロケ)の職を追われ、家族には亀裂が生じ…という大変深刻なストーリーです。映画を見たとき、私は自分の将来を予言されたような気がして、少し落ち込みました。

研究者はどのように老いを迎えるべきか。これについて真剣に考えた一人が、20世紀を代表する考古学者ゴードン・チャイルドです。遺書の中で、彼は学問の世界の「老害」を厳しく批判しました。彼の意見には賛同できない部分もありますが、高齢化社会の問題点を鋭く見据えた主張の多くはとても説得的です。

彼は、老人が各種組織の名譽的役職に就くのは百害あって一利なし、せいぜい65歳が限度で、あとは次の世代に委ねるべきだと書いています。「チャイルドの時代の

65歳は今なら70歳だ」という意見もあります。チャイルドほどの天才が65なら凡人はもっと前かも」という気もします。

私は大学退職後に請われて当館の館長になりましたが、チャイルドに倣えば、もっと若い優秀な人に任せるべきだったのかもしれない。

そういえば、やはり大学教授の考古学者が主人公の映画『インディ・ジョーンズ/クリスタルスカルの王国』には、ジョーンズ教授が学生に「チャイルドの著作を、読め」と指導するシーンがあり、びっくりしました。(渡邊貞幸)

(発行)出雲弥生の森博物館 2015年10月

〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760
(TEL)0853-25-1841 (FAX)0853-21-6617
(e-mail)yayoi@city.izumo.shimane.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

- 入館料 / 無料
- 開館時間 / 9:00 ~ 17:00 (入館 16:30 まで)
- 休館日 / 火曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始